

## 実践事例 2

書字に苦手意識のある児童への音声入力機能の活用①			
キーワード	生活単元学習、卒業文集、音声入力、W i f i — D i r e c t 接続 書字への苦手意識の軽減、表現力、主体的な思考		
学年 領域・教科	小学部6年 生活単元学習	単 元 名	卒業文集を作ろう
<b>使用したアプリ等の概要</b>			
アプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモ（標準搭載）</li> <li>・音声入力機能（標準搭載）</li> </ul>		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモ（標準搭載）は様々なことをメモ帳感覚で使用できる。</li> <li>・音声入力機能（標準搭載）は、メモ、メール、s a f a r i などの標準アプリの他、キーボードを表示するほとんど全てのアプリで音声での文字入力ができる。</li> </ul>		
<b>授業の概要</b>			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までお世話になった教師に卒業文集のメッセージを依頼する手紙を作成する。</li> </ul>		
I C T 活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書字への苦手意識を軽減し、手紙の内容を考えることに集中できるように、考えた手紙の内容を音声入力機能をメモに入力する。</li> <li>・手紙として完成させることができるよう、入力後は、i P a d と W i f i — D i r e c t 接続したプリンターで、その場ですぐに印刷する。</li> </ul>		
<b>児童生徒の変容と授業の評価</b>			
<p>① i P a d を使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この学習を手書きで行った場合、書字への苦手意識から、教師にメッセージを依頼する手紙を作成する学習に意欲的に向かうことができなかつたと考えられる。</li> </ul> <p>② i P a d 使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声入力機能を活用することで、書字への苦手意識が取り除かれ、「書くこと」ではなく「考えること」に集中でき、学習に意欲的に取り組むことができた。</li> <li>・「〇〇先生とは色々な思い出がありますね」など、教師への心を込めたメッセージを考えて添えることができた。</li> </ul>			